

教育委員会定例会事項書

令和2年11月9日(月)
9:30～ 教育委員室

1 開会宣言

議事録署名者 黒 田 委 員

2 前回定例会審議結果の確認(別紙参照)

3 議 題

請願 1 2021年度に向けて30人学級とゆきとどいた教育を求める請願について

4 議 題

議案第 38号 三重県教育職員特別免許状授与審査委員の任命について

議案第 39号 令和2年度三重県一般会計補正予算(第8号)について

4 報 告 題

報告 1 令和3年度三重県立学校実習助手採用選考試験の実施について

報告 2 令和3年度三重県職員(機関士・航海士)採用選考試験の実施について

報告 3 令和3年度三重県立学校家庭科教員採用選考試験の実施について

5 閉会宣言

前回定例会の審議結果

1 日時

令和2年10月27日(火)

開会 13時30分

閉会 13時58分

2 場所

教育委員室

3 出席者及び欠席委員の氏名

出席者 木平教育長、森脇委員、大森委員、黒田委員、北野委員

議事録署名者 北野委員

4 採択議案の件名

該当なし

5 請願陳情の付議の結果

該当なし

6 諸般の報告

報告1 令和2年度三重県学校保健功労者表彰について

報告2 懲戒処分に至らない措置の区分について

報告3 児童生徒の暴力行為、いじめ、不登校等の調査結果について

7 その他会議において必要と認めた事項

該当なし

請願 1

2021年度に向けて30人学級とゆきとどいた教育を求める請願について

請願について、別紙のとおり提出する。

令和2年11月9日提出

三重県教育委員会教育長 木平 芳定

請 願 文 書 表

教育委員会

| 受付番号 | 受付年月日 | 件 名 等 | 請 願 者 | 教育長の意見 |
|------|-----------|--|--|--|
| 請 1 | 令和2年9月10日 | <p>(件名) 2021年度に向けて30人学級とゆきとどいた教育を求めらるる請願書</p> <p>(要旨) 25人下限条件をなくし、小・中・高の全学年で30人学級を計画的に実施すること。 少なくとも、小学校1年生での25人下限条件を早急になくすこと。 教育予算を増やし、正規職員を大幅に配置することによってゆきとどい</p> | <p>30人学級実現とゆきとどいた教育を求めらるる会 代表 吉野 啓子 四日市市笹川1丁目52-16</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本県においては、児童生徒一人ひとりの実態や各学校の課題に応じたきめ細かな教育を推進するため、小学校1・2年生での30人学級、中学校1年生での35人学級を、いずれも下限25人として、平成15年度から順次実施してきました。 ・ また、下限25人の設定により対象とならない学級や他の学年においても学校の状況に応じてきめ細かな指導が行えるよう少人数教育のための定数や非常勤講師を配置しています。 ・ 下限の設定については、限られた財源の中で少しでも多くの学級で少人数教育ができるよう工夫しているものであり、小学校1年生のみ30人学級を下限なしで実施するにしても新たに約50人(2.2億円)の教員が必要となり、下限の廃止は難しいと考えています。 ・ 令和3年度の文部科学省概算要求では、「少人数によるきめ細かな指導体制の計画的な整備について、予算編成過程において検討する」とされており、国に対して、来年度から少人数学級を計画的に進めることを強く要望してまいります。 |

| | | | |
|--|--|------------------|--|
| | | <p>た教育を進めると。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員定数には、単年度措置のものがあつたり、今後の児童生徒数の減少等により定数減が予想されたりすることから、定数内の教職員を正規のみで充足することは難しい状況にあることから、え、国加配の内示が年度未近くになることから、新たな定数配置があつた場合には、当該分は臨時教員による対応とならざるを得ない状況にあります。 ・ こうした中で、今後も様々な教育課題に対応するための加配定数の確保に努めながら、新規採用者について一定数を確保し、正規職員の割合の改善や各市町等教育委員会及び県立学校の状況に応じた教員配置に努めてまいります。 <p>以上のことから、本請願は不採択といたしたい。</p> |
|--|--|------------------|--|

2021年度に向けて30人学級とゆきとどいた教育を求める請願書

提出 令和2年9月10日

三重県教育委員会 教育長 様

提出者

四日市市笹川1丁目52-16

30人学級実現とゆきとどいた教育を求める会

代表 吉野 浩子 (印)

~~他 4530名~~

他 4536名

2021年度に向けて30人学級とゆきとどいた教育を求める請願書

要旨

25人下限条件をなくし、小・中・高の全学年で30人学級を計画的に実施すること。
少なくとも小学校1年生での25人下限条件を早急になくすこと。
教育予算を増やし、正規職員を大幅に配置することによってゆきとどいた教育を進めること。

理由

「ひとりひとりの子どもを大切にした教育の保障」「豊かな人格と確かな学力の保障」のためには、少人数学級の実施が求められます。

三重県においては、2003年度から2004年度にかけて小学校1・2年生で30人学級が実施され、さらに2005年度からは中学校1年生で35人学級が実施されました。これは、子どもと保護者・地域住民の願いに応えた大きな前進です。

しかし、1学級の人数を25人以上とする「下限25人の条件付き」実施によって、毎年、30人以下にならない学級が残されており、その多くは、不平等が固定化されてしまう小規模校です。

2011年度、国が小学校1年生の学級編制基準を35人に改善したことで、18人の学級ができることになり、三重県の「下限25人の条件」がいかに不合理であるかがはっきりしました。

また、学校におけるコロナウイルス等の感染症対策の面からも、子どもたちの安全・安心を確保しながら、豊かな学びの場を保障するためには、少人数学級が必要不可欠であるという世論が高まっている今だからこそ、三重県としては、この18年間続けてきた「下限25人の条件」をなくすべきだと考えます。

四日市市では、2013年度から小学校1年生と中学校1年生で下限なしの30人学級を実施しており、よりいっそうきめ細かな指導ができると、保護者や教職員に喜ばれています。三重県としても、少なくとも小学校1年生では30人を超える学級を早急になくしてください。

一方、下限条件の影響を受けず、低学年で30人以下だった学級では、3年生になると40人学級に戻ってしまうため、子どもが落ち着かない、一人ひとりに目がゆきとどかない等、深刻な問題があります。全学年での30人学級を計画的に実施してください。

さらに、「みえ少人数教育」が正規教員を増やさずに、多くの臨時教員によって進められているという実態も大きな問題です。教育予算を増やし、正規教員を大幅に配置することによって、ゆきとどいた教育を進めてください。